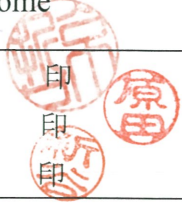


## 論文審査及び最終試験又は学力の確認の結果の要旨

|   |  |       |   |
|---|--|-------|---|
| 甲   | 氏名   | 市山 友子 |   |
| 学位論文名   | Expression of Aquaporin 3 and 5 Has Potential as a Marker for Distinguish Patients with Dry Mouth and Sjögren's Syndrome |       |   |
| 学位論文審査委員  | 主査   | 京 哲   |  |
|   | 副査   | 原田 守  |   |
|   | 副査   | 新谷 悟  |   |
| 論文審査の結果の要旨  |  |       |   |
| <p>ドライマウス (Dry mouth: DM) を惹起する重篤な疾患としてシェーグレン症候群 (Sjögren's syndrome: SS) があり, DMとSSでは治療法が異なるため, 鑑別が必要となる. SSの診断においては, 口唇生検における導管周囲に浸潤したリンパ球数が重要であるが, 切片の断面によってはリンパ球数が変動し, 診断医によってカウント数に差が出てくるため, 異なった診断が導き出される可能性がある.</p> <p>そこで, 申請者らは, 水分子を特異的に通す膜タンパク質であるアクアポリン(AQP)に着目した. 唾液腺腺房細胞にはAQP3, 5が発現しており, なかでもAQP5は唾液分泌とSSの病態への関与が明らかとなっている. このAQP3, 5とDMとSSの病態への関与を明らかにし, DMとSS鑑別のための補助的なマーカーとしての有効性を検討する目的で本研究を企画した.</p> <p>対象は, 本研究への同意が得られた25例 (平均年齢: 67歳), Control群8名 (平均年齢: 25歳), DM群9名 (平均年齢67.1歳), SS群16名 (平均年齢67.7歳) である. AQP3, 5mRNA発現量測定ならびにAQP3, 5の局在と免疫組織学的染色強度をImagJで計測し解析した.</p> <p>結果は, AQP3, 5は3群とも腺房細胞の頂端側, 側底側, 導管細胞膜に局在しており, AQP5は細胞質にも局在を認めた. mRNA発現量は3群間で有意差はみられなかった. 頂端側におけるAQP3, 5の染色強度は, 樹木分析による解析から, とともに弱い症例はSSである可能性が高かった. 以上から, AQP3, 5は, DMとSSの病態に関与し, DMとSS鑑別のための補助的なマーカーとなる可能性が示唆された.</p> |  |       |   |
| 最終試験又は学力の確認の結果の要旨   |  |       |   |
| <p>申請者は, 口腔の腺房細胞に発現するAQP3, 5に着目し, DMおよびSSにおいてその蛋白発現や局在を検討し, SSではAQP3, 5の発現が減弱していることを見出した. 今回の結果はSSの補助診断に応用可能で臨床的な意義が大きい. 質疑応答も的確で, 周辺知識も豊富であり, 学位授与に値する. (主査 京哲)</p> <p>申請者は, DMとSSの鑑別のために口腔の腺房細胞でのAQP3, 5 の発現の強さと局在を詳細に検討し, SS側でのAQP3, 5の発現が減弱していることを見出した. その結果は鑑別診断に役立つものである. 質疑応答知識も豊富であり, 学位授与に値すると判断した. (副査 原田守)</p> <p>申請者の研究によって, DM患者とSS患者, 特にその境界領域の患者を的確に診断できる可能性があり, 医学, 特に口腔医学の発展に大きく貢献した成果と言える. 以上より学位授与に値すると判断した. (副査 新谷 悟)</p>   |  |       |   |

(備考) 要旨は, それぞれ400字程度とする。